



千秋公園桜まつりが開催されました。花の咲き具合が気に入りですが期間中の天候が良いことを期待するばかりです。▽園内のソメイヨシノをはじめとして約700本の桜が咲き誇る様は見事です。市中心部に位置する公園ですので多くの市民が四季を通じて訪れています。やはり桜やツツジの咲く頃が和やかな気持ちになりそうです。▽そのツツジは例年であれば5月中旬から下旬までが見ごろだったと思えます。天候も安定し、園内を散策やジョギングするなど楽しみ方も多様です。▽桜まつりに話を戻せば今年も露店が若干出店数を減らしながらも復活との報がありました。「花より団子」とはよく言ったものですが、やはり「まつり」には露店がつきものであり、なくてはならない存在です。▽その業務形態や設置方法のせいなのか、コロナ禍のなか、全てと言ってよいほどに市内の祭典やイベントでの出店が見送られてきました。▽露店を排除することは簡単ですが各地の祭典に長い間、彩を与えてきたことを合わせて考えた場合、文化的側面からのアプローチも必要となります。▽難しい言葉ではなく秋田市のイベントや祭典において「なくてはならない」露店等との「共生」を図らなければならぬのではないのでしょうか。

消防団員の条例改正

秋田市では「秋田市消防団員の報酬及び費用弁償額並びにその支給方法条例」の見直しが行われました。

全国的に見ても消防団員の減少には歯止めがかからず、本市では令和4年4月1日現在、条例定数2100人に対し実団員数は1609人となっており、前年同期との比較では56名の減なのです。

国では団員の士気向上や確保。また、消防団活動に対する家族等の理解を得るために「報酬等の処遇改善」が必要と考え、「非常勤消防団員の報酬等の基準」が策定されました。そこで秋田市においても消防団員の報酬額等が改定されました（施行日4月1日）。

この度の改定により団員の多くがその使命をさらに強く自覚し訓練等に励んでいただきたいと思います。また、減少する団員数に関してには危機感を持ち、その確保に努めなければならぬでしょう。

また、消防団に入団の希望や興味を持たれた方は、お近くの消防署や消防団にお問い合わせをお願いいたします。

健康づくりのヒント

いま、手元にあるのは「健康づくりのヒント集」。秋田市民生活部特定検診課の作成です。

一つページをめくると「メタボリックシンドローム」の文字がありました。食べ過ぎや運動不足などは、内臓脂肪が蓄積し各数値の異常が見られ病気を引き起こしかねない状況になります。判断基準として腹囲が

男性85cm以上・女性90cm以上であり、また、BMI（体格指数）として体重（kg）÷身長（m）÷身長（m）＝BMIとなり、腹囲が基準値内でもその数値が25以上であれば注意が必要です。内臓脂肪が体に与える影響は多くあり特に「血糖が高くなる」「血液中の脂が増える」「血圧が高くなる」ことなどが言われており、そのことに伴い「糖尿病・脂質異常症・高血圧症」に至る場合もあります。

健診控えの方も多くおられるようですが秋田市でも国保加入者の40歳以上の方や後期高齢者の方たちに特定健康診査等を6月1日から受付を始めます。ぜひ受診し自身の体の状態を「確認」してください。

パートナーシップ制度

秋田市では4月1日から「秋田市パートナーシップ宣誓制度」を導入しました。それは「お互いの人権を尊重し、一人ひとりが個性や能力を十分に発揮できる多様性を認め合う社会の実現を目指す」ためです。

宣誓できる方は、配偶者がいないことや成年に達していること等、手続きを進める上で、いくつかの項目を満たす必要があります。

現在のところ宣誓後に利用できる行政サービスとしては「市営住宅への入居申し込み」「市立秋田総合病院における面会」「救急搬送証明書」の交付にとどまりますが、さらなる拡充が求められます。

いま、行政として「多様性」を認め合う社会の実現のため制度を導入しましたが社会の現実を追いついていません。しかし、どのような場面においても「少数者」を置き去りにしないことが大切です。個人や少数派の権利を擁護することは多数決の原理の中でも決して矛盾することではなく、「少数派」を保護することは社会全体としての責務とも捉えることができます。

東北絆まつり 秋田

東日本大震災の早期復興を願うイベントが5月28日（土）・29日（日）に秋田市で開催されます。

「東北六魂祭」の魂を受け継ぐイベントですがこの度は八橋運動公園を会場として行われます。

秋田市の竿燈などが参加するパレードは八橋陸上競技場での開催となり観覧席で観ることが出来ます。

そして、同時開催となるのが「県内のグルメ、お祭りが一堂に会する『これは秋田だ！食と芸能大祭典2020』」です。

コロナ禍の中での開催。感染症対策を講じてのイベントになります。野外でするので屋内での感染症対策とは、幾分違った方法になることも予想されます。

国や県では「コロナ対策」をしながら社会活動・経済活動を活発化する施策を取り入れていきます。それは「コロナとの共生」も標榜していると思います。感染経路が具体的にたまって来ているいま、基本的な感染防止対策の徹底・確認しながら地域においても各種行事の開催を実行する時期に来ているのかもしれない。

